

臨床研究「肝細胞癌門脈腫瘍栓に対する陽子線治療が食道胃静脈瘤に与える影響に関する観察研究」について

筑波大学附属病院消化器内科では、標題の臨床研究を実施しております。
本研究の概要は以下のとおりです。

① 研究の目的

肝細胞癌門脈腫瘍栓に合併した食道胃静脈瘤は内視鏡治療のみではコントロール困難なことが多く、門脈圧亢進症悪化の原因となっている肝細胞癌の治療が重要です。肝細胞癌門脈腫瘍栓に対する陽子線治療が食道胃静脈瘤の予後にどのような影響を及ぼすかを検証します。

② 研究対象者

2005 年から 2024 年の間に本院で肝細胞癌門脈腫瘍栓に対して陽子線治療を受けた患者様を対象とします。

③ 研究期間：倫理委員会承認後～2025 年 12 月 31 日

④ 研究の方法

陽子線治療前後で食道胃静脈瘤がどのように変化したかを調べます。また、陽子線治療による肝細胞癌治療効果、肝機能への影響についても調べます。

⑤ 試料・情報の項目（具体的に記載すること）

陽子線治療前後で以下の項目を解析する。

腹部 CT/MRI、上部消化管内視鏡所見、血液生化学データ（WBC, Hb, plt, PT%, Alb, AST, ALT, γ GTP, ALP, T-Bil, DBil, Tcho, ChE, AFP, AFP-L3, PIVKA2 など）、診療記録

⑥ 試料・情報の第三者への提供について

試料・情報の第三者への提供はありません。

⑦ 試料・情報の管理について責任を有する者

筑波大学附属病院 消化器内科 講師 長谷川直之

⑨ 本研究への参加を希望されない場合

患者さんやご家族（ご遺族）が本研究への参加を希望されず、試料・情報の利用又は提供の停止を希望される場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。すでに研究結果が公表されている場合など、ご希望に添えない場合もございます。

⑩ 問い合わせ連絡先

筑波大学附属病院：〒305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1

所属・担当者名：消化器内科 長谷川直之

電話・FAX：029-853-3218 平日 9 時～17 時